

森水無八幡神社

下呂の温泉地区の中心部から少し歩いた所にある森水無八幡神社は、広々とした静かな場所です。この神社の境内は杉の木などの緑の草木で覆われています。神社の中には、12世紀に飛騨地域の職人が彫った、神様を表す10体の木像が鎮座しています。重要文化財に指定されているこのシンプルな木像は、高さ30～60センチほどの大きさです。鍵のかかった扉で隔てられていますが、参拝者がそれらの像に敬意を払う妨げにはなりません。

毎年2月14日に行われる神社のお祭り「田の神祭り」は、無形文化財に指定されています。このお祭りは春の訪れを祝うもので、地元の住人たちにとって重要な行事です。特に、色とりどりの花笠（花で覆われた大きな円錐形の帽子）を被り、田楽として知られる中世から続く祭事で伝統的な舞を披露する若者たちにとっては晴れ舞台です。この帽子は、お祭りが「花笠祭り」と呼ばれることもある理由となっています。住民たちは来る年の米の豊作を祈り、（前もって）祝います。
